平成25年流山市教育委員会第6回定例会会議録

- 1 日 時 平成25年7月4日(木曜日)
開会 午前 10時05分
閉会 午前 11時40分
- 2 場 所 流山市役所庁議室
- 3 出席委員 委 員 長 奈良 文雄
委員長職務代理者 加藤 和代
委 員 小林 晃一
委 員 若松 文
教 育 長 後田 博美
- 4 欠席委員 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 出席職員 学校教育部長 亀田 孝
学校教育部次長兼学校教育課長 鈴木 克巳
教育総務課長 武田 淳
指導課長 大重 基樹
生涯学習部長 直井 英樹
生涯学習部次長兼生涯学習課長 戸部 孝彰
公民館長 渋谷 俊之
図書・博物館長 小川 昇
- 7 事務局職員 教育総務課長補佐 平川 誠治
教育総務課庶務係主査 新倉 英之
- 8 議案等
協議
ア 教育財産の目的外使用について(小山小学校)

イ 教育財産の目的外使用について（流山小学校）

ウ 教育財産の目的外使用について（江戸川台小学校）

9 議事の内容

（開会 午前10時05分）

奈良委員長

ただいまから、平成25年流山市教育委員会議第6回定例会を開会します。
まず、平成25年流山市教育委員会議第5回定例会及び第2回臨時会の会議録をお配りしておりますが、御意見、御指摘がございますか。

（一部修正の指摘あり）

奈良委員長

それでは、会議録については承認ということにします。
次に、教育長報告をお願いします。

教育長

6月の定例会議は、市議会第2回定例会の開催により、日程が取れず、7月の開催となってしまいました。

それでは、5月の教育委員会議以降の内容について、御報告させていただきます。

5月30日に、第61回市内小学校陸上競技大会が開催され、総合優勝は東深井小学校、準優勝は向小金小学校、第三位は小山小学校が受賞しました。

5月31日に、関東甲信越静岡の教育委員研修会が、茨城県つくば市で開催されました。

6月4日19時から、平成26年の成人式の実行委員会発足式が生涯学習センターで、開催されました。今年も昨年同様、実行委員及びサポートしてくださる指定管理者が力を合わせてより良い成人式が開催されるものと思います。

6月5日に江戸川台小学校、6月26日に流山小学校、6月27日に向小金小学校で流山市教育委員会指導課の計画訪問が開催されました。これは、教育委員会の目標あるいは授業実践をして、それをお互いに研修し合う会です。最近の教育新聞に、学校の研修が形骸化しているのではないかという記事がありました。流山市では、決してそのようなことはなくて、何らかの形で最低一人一回は授業の研修を行えるようにしています。授業力の低下は子どもたちの学習の定着や学力低下を招きますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

6月7日に、第61回中学校市内大会が開催されました。市内の中学生がそれぞれの部活動に一生懸命取り組んでいる姿を見ることができました。

6月17日に、千葉県教育庁東葛飾事務所指導室の訪問が、新川小学校でありました。これは平成9年から市内小中学校を南北の2会場に分かれて取り組んでいるものです。千葉県の教育方針や重点項目の説明、授業を通しての指導を受けました。学校が落ち着いた状況の中で学習が展開されていること、経験の浅い若い教職員の力量が高められてきていることなどの評価がありました。

次に、市議会第2回定例会が6月13日から開催され、昨日7月3日に閉会しました。今回の最大の議題は、小中学校併設校の財産取得でしたが、可決されました。

教育委員会に対する質問は、生涯学習関係では、

- 1 流山市文化会館の駐車場及び施設利用について
- 2 小中併設校に整備予定のおおたかの森センターについて
- 3 総合体育館の運用基準について
- 4 公民館の利用について

学校教育関係では、

- 1 学校教育の充実について（不登校、いじめ、問題行動、教職員の研修など）
 - 2 市内小中学校の不均衡是正について
 - 3 防災対策について
 - 4 防災対策について（非構造物の耐震対策の取組について）
 - 5 教育行政について
 - ・小中一貫教育についての見解、中1ギャップなど
 - ・小中併設校について、学区についての見解
 - ・小中学校併設校と既存校の格差、不平等感、教育の機会均等について
 - ・就学援助制度の積極的な活用について
 - ・学校問題について、いじめ、体罰、学級崩壊の現状と対策について、また子どもの生命、人権を守ることの重要性について
 - ・小中学校併設校建設計画における発注・契約について
 - ・小学校の英語教育について
 - ・放射能汚染対策について（ホールボディカウンターによる検査等）
- 等の質問がありました。

最後に、6月28日に千葉市のポートプラザ千葉で、千葉県都市教育長会議が開催され、次年度の県教育委員会への要望事項を協議し、取りまとめました。

私からは以上です。

奈良委員長

ただいまの報告について、御意見等ございますか。

(特になし との声あり)

奈良委員長

それでは以上で教育長報告を終了します。

これより、議事に入ります。

まず、協議ア「教育財産の目的外使用について」を議題とします。協議理由の説明を求めます。

教育総務課長

(学童クラブの児童数の増加に対応するため、小山小学校の図書室を学童クラブとして使用したい旨の要望が流山市長からあったため、これを許可する旨を説明)

奈良委員長

本件について、質疑等ありましたらお願いします。

小林委員

この案件についての異議はありませんが、学校施設を学童クラブとして使用することが目的外使用になるというのは、現在の法体系上やむを得ないとしても、例えば小山小学校の場合、児童の約半数が学童クラブに行くということですから、今や学童クラブは学校の必須の施設になっているわけですから、これが目的外使用になるというのは、非常に違和感があります。

ところで、新市街地地区の小中学校併設校の配置図を見ますと、学校内に学童クラブがないのですが、今後どのようにしていくのでしょうか。

教育総務課長

学童クラブが目的外使用になることについては、学校施設は文部科学省の補助金を受けているという事情があります。本件の協議は1年間という短期的な使用ということで、目的外使用の許可で対応するものです。それと、この学童クラブは指定管理者が管理運営をしておりますので、責任の所在を明確化する必要があるため、お互いに協議をしてしっかりとした手続をしておくものです。

また、小中学校併設校については、当初、別棟で2クラス、130人規模の学童クラブを建設する予定でしたが、開校当初の学童の人数はそれほど多くないであろうということと、少しでも事業費を削減するために、当初は多目的教室を利用して学童クラブを開設するものです。この多目的教室の面積は2教室分

ありますので、学童クラブとして使えるような設備を当初の設計から入れております。また、多目的教室だけで足りなくなった場合は、敷地内に用地を確保してありますので、保育課と協議して、適切な時期に建設することになると思います。

小林委員

当面の対策としては理解できます。

これは私の意見ですが、現在の行政のルールで学童保育は厚生労働省、学校は文部科学省の担当になっているということがずっと尾を引いていて、学童保育については教育委員会の外のことになっているのです。しかし、現在、小学校低学年の約3割、将来的には4割から5割の児童が学童保育を必要とするようになるであろうという予測がされている状況で、このままでいいのかという意識を私は強く持っています。つまり、学校経営では学校と家庭ということを考えるわけですが、今や家庭の部分が学童保育に置き換わってしまっている状況なのに、教育行政の側が学童保育に関知しないというのは、大変問題があると思います。もう少し言えば、市によっては教育委員会が学童保育を担当しているところもあるのです。予算は厚生労働省、つまり福祉の予算になりますが、実際の管理は教育委員会が行うというものです。これからは流山市でも教育委員会として総括的に考えてもいいのではないかと思います。

教育長

これまでは厚生労働省又は文部科学省の補助金で分けられていますが、小林委員の御意見は、これを子どもや保護者の目線に変えたらどうかということだと思います。市町村によっては、幼児については幼稚園も保育所も「子ども部」のような部署が担当し、小学校は全て教育委員会が担当するということもあります。国においても、幼保一元化のための認定こども園や総合こども園の話がありますが、なかなか進まない状況です。一方、市の議論としては、どこかで担当の区分をすることも考えられますが、職員の任用の問題もあり、十分な検討をしないと本当の意味で子どもたちのためにならないのではないかと思います。国における議論もありますが、小林委員がおっしゃるように、そういう時期に来ていると思いますし、議論していかなければならないと思います。

小林委員

国の法体系から考え直していくのは大変なことなので、それはそれとして、現在の枠組みの中で市町村が何をすることができるかを考えなければならぬということです。例えば、放課後に校庭を開放しようとしている学校がありますね。ところが校庭の中に学童クラブがあると、学童クラブに通っている子

どもは家に帰らないで学童クラブに行くわけですから、これは一度家に帰ったことと同じになるわけですが、外で遊ぶわけですね。また、家庭にいる子どもも校庭が開放されているから、そこで一緒に遊ぶわけです。そうすると、そこで万一事故があった場合の対応が難しいわけです。子どもが怪我をしてしまった場合、学童クラブの子の手当をして、学童クラブに通っていない子の手当をしないというわけにはいきませんよね。また、一緒に遊んでいたら、学童クラブに通っていない子も学童クラブに遊びに行きたくなくなってしまいます。現場ではもう少し融通を利かせて、教育委員会も子ども家庭部も一緒になって総合的に見る形を考えていかないと、この問題はなかなかうまくいかないのではないかと思います。

また、学童クラブに子どもを預ける家庭がどんな家庭であるかを分析していくと、いろいろ見えてくるものもあると思います。例えば、共働きで比較的経済的に豊かな家庭と、ひとり親でどうしても働かなければならない家庭もあると思います。その両面を受け止めて、行政の現場として考えていかなければなりません。簡単には答えは出ないと思いますが、こういった問題について意識する必要があります。

若松委員

都内では少しずつ文部科学省系で放課後子どもプランという空き教室を活用して、どの子も利用できるようにして、その後、5時以降は学童保育というシステムを取り入れているところが出てきています。

保育所は保護者の収入によって保育料が異なりますが、学童保育はそうではありません。福祉であるならば、福祉的な配慮が必要ですし、本当に保育が必要な家庭と、相当の収入はあるけれども同じ金額で預けている家庭に関して議論しなければならぬと感じています。それと、流山市全体を考えますと、現在約3割の子どもが学童保育を利用していて、将来的に5割になったとしても、残りの半分は、今までどおりに親や地域の方々が見守っていて、お金をかけずに相互互助でやっているわけなので、学童保育を利用していてもいなくても、流山の子どもたちの安全を確保するという事は共通です。ですから、午後5時までは少なくともみんな共通で、その後必要な部分を行政で支えるというシステムであってもいいような気がします。

小林委員

今のお話は、午後5時くらいまでは学童保育に行こうが行くまいが、放課後のあり方として子どもは皆同じではないかということだと思います。そうすると、午後5時までの時間を学校は放っておいていいのかということになりま

す。かつてはそれでもよかったのですが、現在はそこまで見ていかなければならないということを教育委員会としても考えなければならないと思います。小学校も高学年になれば塾に行くなどして、子どもが自分で考えて行動しますが、低学年については、誰が放課後の面倒を見るのか、社会も学校も考えなくてはならないのではないのでしょうか。

教育長

放課後子どもプランは、全国的にもあまり広がっていません。どうしても教育と福祉という話になってしまうのですが、教員の勤務時間が5時までだから学校が預かるべきということでもないと思うのです。また、保護者の立場では、学校に行っていること自体は同じなのだから、誰が面倒を見ようがきちんと責任を持ってやってもらいたいと考えるでしょう。議論し、検討していくに当たっては、流山市の学童期の子どもたちをどのように過ごさせるかを広い視点で考えないと、個々に対応していくのは無理があるのではないかと思います。私が学校現場にいた経験では、学童の子に注意もしましたし、困っているときには手助けもしました。やはり、両方で歩み寄っていかないとなかなか解決できませんので、予算がどこから出ているかとは別にして、意識を持たなければなりません。

小林委員

保育所の待機児童をゼロにしようということで、保育所を充実させればさせるほど、実は1、2年後にはそれが学童保育の問題になるわけです。これは行政のジレンマだと思うのですが、やればやるほど次に解決しなければならない問題を抱え込んでしまうということを認識しなければならない。今の国の制度上又は法律上の問題はありますが、その中であっても解決していかなければならない喫緊の問題が起きてくることにどう対応するのか考えておかなければならないということです。

奈良委員長

目的外使用の議題から学童保育のあり方についての話題になりましたが、いわゆる横浜方式というのがありまして、学校の校舎の中で5時、6時まで預かり、その後8時くらいまで学童保育が行うという学校があります。

かつて、学校の中で怪我をした時に見舞金が支給される制度がありました。これは、登下校時に関しては2分の1が支給され、一旦、帰宅してから遊びに行った時の怪我については支給されないということでした。それでは、学童保育についてはどうかというと、やはり学校外ということで対象外ということでした。何か、学童が疎外されているような気がしました。

先ほどお二人の委員さんのお話もありましたが、制度の狭間にあるような状況ですが、子ども個人にとってはどちらであろうが同じですので、十分に検討していただきたいと思います。

加藤職務代理者

私は、葛飾区や足立区で防災等の地域活動の支援をしているのですが、そこでは当然のように放課後子どもクラブがあって、地域活動をされている町会長さんや自治会長さんがその活動に参画していて、地域の方々が指導員をしています。どんな活動をするかは、地域の方々が一生懸命考えているようです。文科省系の放課後子どもクラブで、地域の方々が見守るような形になっていました。子どももお年寄りも地域が助け合いながら地域活動をしているようです。

小林委員

私は学童クラブの運営委員会の委員長をしていました。地域として学童クラブを見ていたのですが、次第に地域のボランティア活動の一環では手に負えなくなってきました。かつては「カギっ子」という子どもたちが問題になって、親が働いている場合には、地域の人たちがボランティアで子どもたちの面倒をみるという形で学童クラブは始まったのです。その人たちを指導員と称して、当初は無給だったのですが、次第に有給になって、現在は流山市の場合、学童クラブの運営費の6割は市の補助金で賄われています。こうなると、学童クラブは単なる地域の問題ではなくて、市の施設になっているわけです。ですから、自治会のような地域のボランティア活動と同じレベルには扱えない状況です。今や全ての学校に学童クラブを作らなければならないという状況になっています。それも学校の敷地外に設置する場合と敷地内に設置する場合とでは、運営の形態が全く異なってきます。学校の敷地内だと下校したのかしていないのかという問題があります。学校の先生は子どもを帰した後も、まだその子が学校にいるということになると、どこまで責任を負うことになるのか、という疑問があります。このように様々な問題が深刻な状況になってきているわけです。

諸外国ではどうなっているのかというと、アメリカやヨーロッパは法律が全く異なっていて、一定の年齢に満たない子を一人にしてはならないのです。ベビーシッターを雇わなければならないという義務があります。また、韓国や台湾では、日本と同じ学童クラブのようなものがあります。一方、ドイツは日本と同じように学校の中にあるのですが、やはり日本と同じような議論になっているようです。

教育長

学校と学童クラブの関係ですが、学童クラブが敷地内にありましたので、児童が下校する時間に昇降口に学童クラブの指導員が迎えに来るというルールを作りました。責任の区分をはっきりさせるためです。それでも、例えば学童クラブに行く前に、校庭で遊んでいたりする児童がいるわけです。こうしたことは、話し合いで取り決めるしかありません。集団下校の場合でも、学童クラブの列を決めていました。こうした小さなことから少しずつ取り組んでいるのが現状です。

小林委員

もう少し踏み込んで考えていただきたいのは、なぜ教育委員会が社会人の教育である生涯学習をやるのかということです。

学童というのは学校にいる児童です。幼稚園までならば保育でいいのかもしれませんが、学校という学習の課程に入ってきた子どもに対しては、教育の担当者はグローバルに関心と責任感を持って取り組むべきではないかと思えます。確かに、福祉と教育というものを切り離してしまうこともできます。先ほど加藤委員がおっしゃったように地域が行う活動は、福祉であろうと思えます。しかし、私も学童クラブに関わってきて、次第に学童クラブも学校生活の一部ではないかを感じるようになりました。放課後に友達と一緒に遊び回っている子どもたちの姿を後ろから見ているというのが学校の先生だったと思うのですが、そういうものがなくなってしまっているのかなという気がします。そうすると、生涯学習という概念はどうなるのでしょうか。そうであれば、生涯学習の概念の中に学童保育を入れて考えてもいいのではないかと私は思っています。結論はなかなか出ないでしょうが、一つの問題提起としたいと思います。

教育長

学校は、学習指導要領に則った指導をしなければなりません。もちろん、それ以外のことはしないというわけではありませんが、放課後は採点をしたり、評価をしたり、学校行事の打ち合わせをしたり、多くのやるべきことがあります。なかなか難しく、どこの市町村も悩んでいる問題なのです。

生涯学習部長

学童クラブの運営をしているNPOの人たちは、実はほとんどが公民館講座などで幼児教育から関わって来られた方が多いのです。そして、PTAとして家庭教育講座などに関わった方々が、ご自分の子育てが一段落したときに学童クラブの活動をなさっています。ですから、私たち生涯学習部は、直接関わるのではなく、例えば仕事をリタイアした方々がどのように地域の活動に溶け込

んでいくか、お手伝いをすることにより、結果として多くの方が学童クラブに活動の場を見出せるようなことになっていけたらいいと思います。

小林委員

学童クラブには障害のある児童も入ってきます。学校は、障害の度合いに応じて様々なケアをしますが、学童クラブの指導員は教員免許や保育士の資格を持っている人とは限りませんので、十分な対応ができないのです。しかも、学童クラブの運営費には市の予算が使われています。そうすると、市にも責任があるということで、子ども家庭部には苦情も多く入っているのです。教育委員会としても、学童クラブにもっと強い意識を持たなければならないと思います。

しかし、この議論は難しいので、今回は問題提起ということにさせていただきたいと思います。

加藤職務代理者

小山小学校の目的外使用の話に戻しますが、図書室の図書も目的外使用することになるのでしょうか。

教育総務課長

今回の目的外使用の対象は、施設です。図書室を学童クラブで使用するときは、学校の教職員がいる時間帯で、学童クラブの指導員も図書室に付き添ってもらいます。

加藤職務代理者

通常、学童クラブには図書が置いてありますので、図書室の本を読んでもらってもいいと思います。

教育長

実際には、子どもたちが本を読むことはあると思います。指導員の方がいますので、むしろいい取組だと考えます。

若松委員

子どもの通学のことを考えると、学校内に学童クラブがあることはいいと思う一方、学校の施設を利用することによる破損、事故等があったときに、責任の所在がどこまであるのか、もう少し議論をして、小さな子どもですから大きな事故が起きないように気を付けていただきたいと思います。

小林委員

学童クラブを学校内に設置することがいいかどうかという議論もあると思います。用地等の制約から学校内にしか設置できないということになっていると思うのですが、学校に体育館があるのと同じように、学校内には学校施設と

して必ず学童クラブがあるという概念を作っていくことになる可能性があります。それでいいのかどうかという議論もあると思います。学童クラブが家庭の代替をするものであるならば、やはり本来は、学校の敷地外に設置するべきだという議論もあると思います。一長一短ありますが、そういうものも視野に入れてこの問題を考えていくべきだと思います。

奈良委員長

諸外国の学童保育のお話もありましたが、他の外国の事例はどうなのでしょう
うか。

若松委員

タイの場合は、日本とは全く異なるシステムで、学校内に朝から屋台が入っ
ていて、夕方もそこで夕食を食べて帰るという子どももいます。

私は、地域のサロンのような、高齢者も含めた施設があってもいいのかな、
という気がしています。学童に限定せず、もっと大きな施設の中で、お母さん
がいない日はそこで食事をしたり、地域の人みんなが利用できるカフェのよう
なものがあってもいいような気がします。

日本の学校は、子どもが小さい頃ほど学校の機能が限定的です。大学ならば
社会人も来るし、食堂もオープンですが、小学校では学校をほかのものに使う
という発想がなくて、なかなか受けとめ難いのかなと思います。学校を地域に
開くということは始まったばかりなので、時間はかかるとは思います。学校が
学校以外の機能を持つことについて考えてみても面白いのかなと思います。

奈良委員長

ほかに御質問はありませんか。

(異議なし との声あり)

奈良委員長

御異議なしと認めます。よって、協議アは了承することに決しました。

次に、協議イ「教育財産の目的外使用について」を議題とします。協議理由
の説明を求めます。

教育総務課長

(流山小学校の校庭に設置している学童クラブを増築するため、同校の校庭を
使用したい旨の要望が流山市長からあったため、これを許可する旨を説明)

奈良委員長

本件について、質疑等ありましたらお願いします。

(異議なし との声あり)

奈良委員長

御異議なしと認めます。よって、協議イは了承することに決しました。
次に、協議ウ「教育財産の目的外使用について」を議題とします。協議理由の説明を求めます。

教育総務課長

(江戸川台小学校の校庭に学童クラブを新築するため、校庭を使用したい旨の要望があったため、これを許可する旨を説明)

奈良委員長

本件について、質疑等ありましたらお願いします。

小林委員

本件についての異議はありません。
いくつかの学校で、空き教室を学童クラブにしているところがありますが、教室ではなくて、校庭でいいから別の建物にするように、教育委員会として働きかけるべきではないかと思います。空き教室を使うと、小学校高学年はまだ授業をしている時間に、低学年が同じ校舎で遊んでいたりすることもありますし、学校の授業をする校舎の中に学童クラブがあることは、あまり好ましくないと思います。

教育総務課長

厚生労働省の学童クラブの設置方針によると、優先順位として、第1に余裕教室の活用、第2に学校敷地内に設置、第3に学校外の敷地ということになっています。学校に関しては、文部科学省も余裕教室を活用した取組を推奨しておりますし、流山市としましても、ファシリティ・マネジメント¹を進めるに当たっては、新たな施設を増やすということではなく、余裕教室の活用のほか、新築する場合であっても複合施設化、多目的化するなど、なるべく公共施設としてのストックを減らしていく方針で進めていますので、確かに管理上は別棟の方がいいのですが、余裕教室がある学校については、なるべくそれを活用しながら運営管理できれば好ましいのではないかと思います。

小林委員

そうであるならば、学校を運営する側の教育委員会は、学童クラブに対するいろいろな形での責任と義務を認識しなければならないと思います。学童クラブも学校の施設の一部なので、学校運営の一環として考えるように切り

¹ 企業、団体等が保有又は使用する全施設、資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動

替えていかなければなりません。

教育長

全国的には児童数が減っていて、余裕教室が増えている状況ですが、流山市では児童数が急増しているため、国の方針が当てはまらないのかもしれませんが。学校の管理面では、学童クラブは別棟の方がいいのです。学童クラブは、土曜日や夏休みも開いていますので、例えば、西深井小学校では、シャッターを設置して区分しています。

私たちは、できるならば学童クラブは学校敷地外にしたいのですが、用地の問題もありますので、校庭に設置することもありますし、余裕教室があればそれを活用するようにしています。ただし、流山市では余裕教室はほとんどない状況です。ですから、現在教室を使っている学童クラブも将来的には外に設置することになるかと思えます。ただし、あまり遠く離れていると、子どもたちがそこに着くまでにトラブルに巻き込まれるかもしれないので、よく検討しなければなりません。

小林委員

流山市の学童クラブの運営は、指定管理者が行っています。市全体の学童クラブをグループ分けして、いくつかの指定管理者が運営しています。そうすると、一つのグループの中で学童クラブに来る人数が多い学校と少ない学校があるわけです。そうすると、土曜日や夏休みになると朝から夕方まで学童クラブが子どもを預かるのですが、子どもが1人か2人しか来ない状況でも、指導員は2人いなければならないのです。一方で、子どもが大勢来る学童クラブもあるわけですから、それを解決するために、学校区を越えた学童クラブの運営をしていいのかどうかという問題が起きています。1学校区に1学童クラブという考え方に拘っていると、解決は困難です。

それと、流山市には私立の学童クラブはまだ進出していませんが、都内や松戸市では学習塾等による送迎付きの学童クラブが進出しています。流山市もいずれそういうことが起きる可能性がありますので、それへの対応も視野に入れて考える必要があります。

若松委員

江戸川台小学校の学童クラブは、現在、隣の幼児教育支援センターにありますが、そちらはそのまま残して、新設するということなのでしょう。一つにまとめてもいいような気がします。学童クラブの子どもたちが附属幼稚園の遊具で遊んでいるのを見ると、幼児を想定した遊具ですので非常に怖いのです。

教育総務課長	保育課からの資料では、現時点では既存の学童クラブの施設はそのまま残す方針とのこと。
若松委員	せっかく幼児教育支援センターもありますので、もしも既存の学童クラブを移転することができるならば、就学前のお子さんで特別支援が必要な子を通所させたりする施設を幼児教育支援センターに設置して、就学前の支援を学校の近くでできるようにになればいいのではないかと思います。
奈良委員長	ほかに御意見はありませんか。
	(特になし との声あり)
奈良委員長	協議ウは了承することに御異議ありませんか。
	(異議なし との声あり)
奈良委員長	それでは、協議ウは了承することに決しました。 次に、各課等報告について、生涯学習部各課からお願いします。
	(生涯学習事業、公民館事業及び図書・博物館事業について説明)
奈良委員長	ただいまの報告について質疑等ありましたらお願いします。
	(特になし との声あり)
奈良委員長	次に、学校教育課からお願いします。
学校教育課長	((仮称) 新市街地地区小中学校併設校の校名公募実施要領について説明)
奈良委員長	本件について、質疑等ありましたらお願いします。
	(特になし との声あり)
奈良委員長	特にないようですので、以上で各課等報告を終了します。

以上をもっと、本日の教育委員会議に付議された案件の審議は終了しました。その他、協議する事項がありましたらお願いします。

(特になし との声あり)

奈良委員長

それでは、次回の教育委員会議について、事務局からお願いします。

教育総務課長

次回の教育委員会議は、7月25日(木曜日)市役所庁議室で、午前10時から開催したいと思います。いかがでしょうか。

(次回の日程協議)

奈良委員長

次回の教育委員会議は、7月25日(木曜日)市役所庁議室で、午前10時から開催することといたします。

以上で、平成25年流山市教育委員会議第6回定例会を終了します。

(閉会 午前11時40分)